



中心市街地のやすらぎの空間
(西川緑道公園)

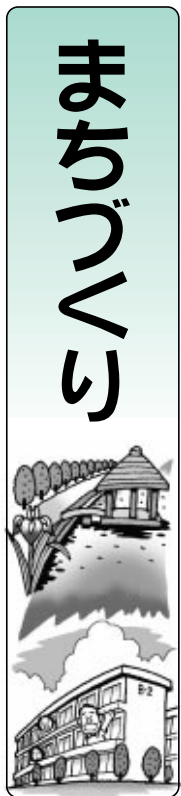
を、支障となる枝のせ

西川緑道公園を 魅力ある公園に再整備

問 旧出石小跡地および下石井公園との一体性・回遊性確保

の観点から、西川緑道公園の再整備が必要では。

答 整備後、約三十年が経過し、歩道等の修理、点検を重ねてきたが、今後、さらにバリアフリー化に重点を置き、安心・安全な歩行空間の整備に努めたい。現在、公園灯の照度調査を終え、



まちづくり

急救命等安全・安心面の体制整備や住民サービスの高度化・安定化等が図れること。同町は自然環境を生かした教育・産業・観光等特色ある施策に取り組んでいること。などが主な内容だ。

れたが、具体的な取り組みは。答 人事・給与、財務等内部事務の効率化を図るため、全庁的に業務内容を見直し、新たな電算システムの開発に取り組み。また、現在、大型汎用機で処理している行政事務については、運用コストを削減するため、小型で高性能のサーバ機等による処理方式への移行等、関係課共同で業務システムを見直す。

問 新行財政改革プランの一環として、平成17年4月にシステム効率化推進特命班が新設さ

針は。問 灘崎町総合公園の整備方針は。

んだ等を行っているが、夜間の回遊性や安全性の向上に向け、平成18年度からまちづくり交付金により、一層魅力ある公園として整備したい。

灘崎町総合公園 平成22年度完成を目指して

問 灘崎町総合公園の整備方針は。

答 岡山国体サッカー少年男子の会場として整備されてきた。今後は、約九・七ヶ所の周辺部に



市南部の新たな健康づくりの拠点へ
(灘崎町総合公園整備予定地)

各種スポーツ施設、健康遊具や足裏マッサージ園路等の健康づくり施設を設置し、中央部はラ

ジオ体操や太極拳等の身近な運動をはじめ、だれもが利用しやすい広大な広場を計画しており、バリアフリーの良好な環境の下、心と体がいきいきする健康公園として平成22年度の完成を目指したい。

高島団地に 「元気の館」を整備

問 市営住宅建て替えの全体計画を持たないまま、高齢者対策としての「元気の館」整備に高島団地を選定した理由は。

答 市内最大規模の団地で、高齢者・高齢單身世帯が増加していること、敷地が広く耐用年数が過ぎた平屋住宅が多いこと、高齢者対応の地域要望があり協力姿勢も強いことなどからモデル事業としての効果が期待できるためだ。全体計画策定には熟練したノウハウ等の蓄積が必要であり、まず実現可能な具

体例を実行・検証する中で、他住宅の建て替えや活用に生かしたい。



JR庭瀬駅 バリアフリー化事業

問 JR庭瀬駅のバリアフリー化事業について。その内容は庭瀬・撫川地区のまちづくり交付金事業との連続性ある事業展開を。

答 二基のエレベーターを設置するとともにプラットフォーム



人にやさしく魅力あるまちづくりを
～庭瀬駅(上)と庭瀬往来(下)～

ムのかさ上げによる段差解消、トイレ改修等を行う計画だ。駅前広場については、今後の検討課題としてJRと協議していく。駅周辺との連続性について、木堂生家のあたりまでの回遊性を念頭に置き、まちづくり協議会を中心に関係機関と協議していきたい。